

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)白藤災害公営住宅建設工事	階数	地上7F	
建設地	熊本市南区白藤3丁目392番1	構造	RC造	
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	227 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年7月6日	
敷地面積	5,106 m ²	作成者	蔵原 佳代子	
建築面積	999 m ²	確認日	2017年7月6日	
延床面積	4,720 m ²	確認者	柳田 果李	

1 CASBEE評価結果

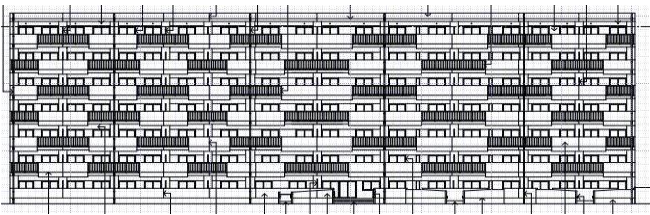
■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			
★★★★★ 環境品質 Q 環境負荷 L		BEE = 1.7	■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$
		■環境効率評価基準	
ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値Q値
S	★★★★★★	素晴らしい	3.0以上50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満—
C	★	劣る	0.5未満—
		■ライフサイクルCO ₂ 排出性能評価基準	
		判定値(排出率)	ランク表示
		30%以下	☆☆☆☆☆
		30%超60%以下	☆☆☆☆
		60%超80%以下	☆☆☆
		80%超100%以下	☆☆
		100%超	☆
■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能(ランク表示)		排出率	
☆☆☆☆☆		49%	

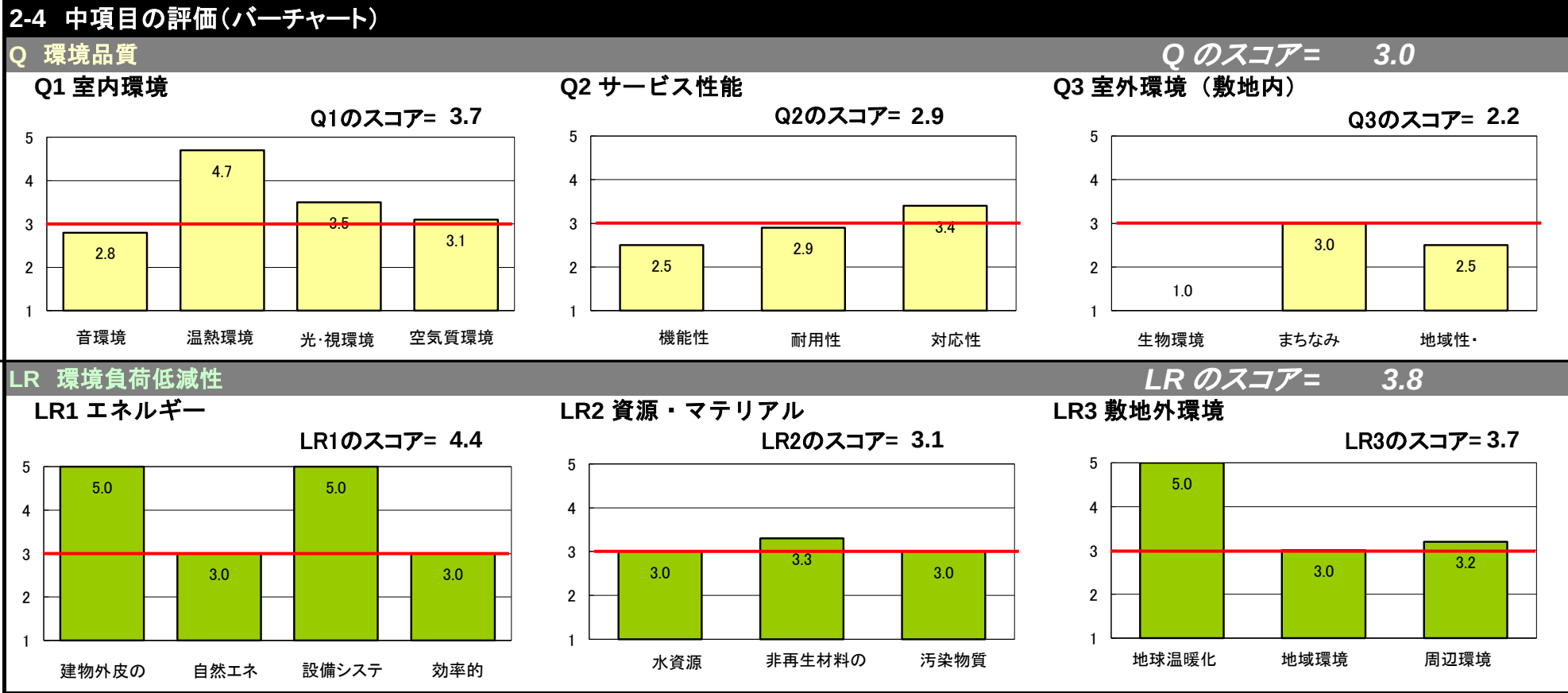
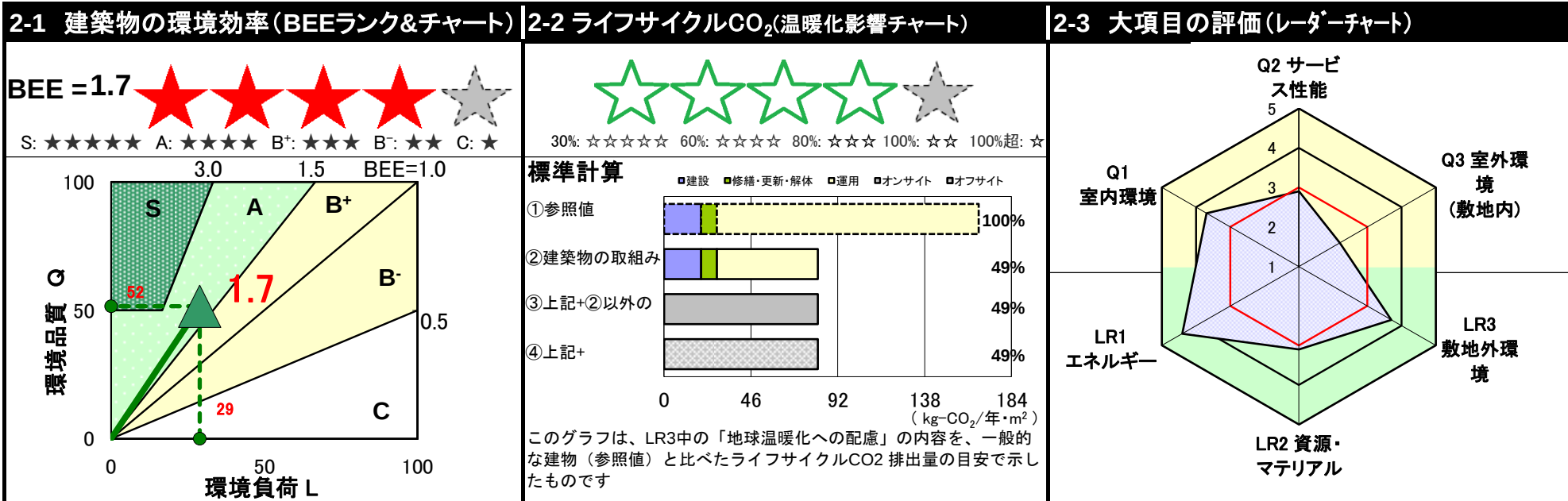
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
   		84												
	評価点	■熊本市重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	99.8	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上	    	80点以上100点未満	   	60点以上80点未満	  	40点以上60点未満	 	40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上	    													
80点以上100点未満	   													
60点以上80点未満	  													
40点以上60点未満	 													
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	78.7													
※評価点は、100点以上が推奨です。														

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)白藤災害公営住宅建設工事	階数		
建設地	熊本市南区白藤3丁目392番1	構造		
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	5,106 m ²	作成者		
建築面積	999 m ²	確認日	2017年7月6日	
延床面積	4,720 m ²	確認者		
			柳田 果李	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)白藤災害公営住宅建設工事			■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)			
スコアシート 実施設計段階			欄に数値またはコメントを記入			
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40		-	3.7
1 音環境		-	0.15	2.8	1.00	2.8
1.1 騒音	(住居部)住戸:40dB(A)	-	-	4.0	0.50	
1.2 遮音		-	-	1.6	0.50	
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能			-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	1.0	0.20	
1.3 吸音			-		-	
2 温熱環境		1.0	0.35	5.0	1.00	4.7
2.1 室温制御		1.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温	等級4	1.0	1.00	-	-	
2 外皮性能		-	-	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性			-		-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.7	0.25	3.6	1.00	3.5
3.1 昼光利用		3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率	(住居部)2DK BタイプDK:2.3%	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口			-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	(共用部)底により制御 (住居部):カーテン・底(バルコニー)の設置	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.0	0.25	3.1	1.00	3.1
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 アスベスト対策			-		-	
4.2 換気		3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量	0.139(1/8以上確保)	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理			-		-	
1 CO ₂ の監視			-		-	
2 喫煙の制御			-		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.9
1 機能性		2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性			-		-	
2 高度情報通信設備対応			-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観			-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
3 衛生管理業務			-		-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.50		-	
1 耐震性		3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位2種にB以上を使用Eは不使用	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20		-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.6	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		2.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.30	3.5	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり				-	-	4.0	0.50	
	1	階高のゆとり	階高:2.9m	-	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	比率:0.25	-	-	4.0	0.40	
				-	-	3.0	0.50	
	3.2 荷重のゆとり			3.4	1.00	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.20	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		5.0	0.10	-	-	
	3	電気配線の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる	3.0	0.20	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
	1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制			ライフサイクルCO2排出率:45%	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 — 住宅(専有部)	5.0	0.50	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)				-	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)			LED照明の採用	5.0	1.00	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			壁・床・天井:パネル下地	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7	
1 地球温暖化への配慮			高効率機器の採用	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			自転車置場、駐車場の確保、導入路の配慮	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			・光害がガイドラインチェックリスト過半を満たす ・広告照明なし	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

敷地北側の既存棟への圧迫感を考慮した配置計画とした。
既存建物と統一した立面計画とし、周辺環境との調和を考慮した。

Q1 室内環境

使用する材料はF☆☆☆☆とし、使用する接着剤についてもF☆☆☆☆とした。

Q2 サービス性能

設備配管の更新性を考慮した計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内には適宜緑地帯を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

省エネ計算結果（等級4）

LR2 資源・マテリアル

節水コマを採用した。

LR3 敷地外環境

駐車スペースを各世帯1台を確保した。
車両の敷地内出入口は、幅員を8.0mとしを広く確保した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)白藤災害公営住宅建設工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		84
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				99.8	0.40	39.92
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.9	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.16			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.21			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.32			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78.7	0.20	15.74
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数